

文責 審査委員長 北川哲雄

① 企業部門と金融部門両サイドを表彰することの意義

- 企業のESG活動の実践とその評価を金融機関やサービス機関が適切に行う。

② 評価ポイント（企業側）：陰徳あれば陽報ありという視点

- 「陰徳」つまり本気でESG活動の本質を理解して継続して行うことが必要。それがあってそれがあれば「陽報」（社会に理解され、好循環をきたす）が来る。

③ 評価ポイント（金融機関およびサービス機関）

- 分析能力と情熱。社会構造の変化に参画するという意識。

④ 表彰された企業・金融機関のレベル：レベルの高さが確認された。

- 企業側～ 欧州トップレベルに伍している。キャッチアップする段階は過ぎた。
- 金融機関・サービス機関側～ 誠実さ緻密さが光る。この「蓄積」が一気に開花する時期が直ぐにくる。

⑤ 課題

- 社会インフラとしてのプロフェッショナルの育成（企業側にも金融機関・サービス機関側にも）。
- 受容だけでなく思慮深く考察のもと海外へ建設的な情報発信を積極的に行う。